様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：６２６１８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２７１４

研究課題名（和文）LINEにおける待遇表現ストラテジーの計量的研究

研究課題名（英文）A Quantitative Study of Treatment Expressions Strategy in LINE

研究代表者
宮嵜　由美（MIYAZAKI, Yumi）

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音声言語研究領域・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号：９０７７１１６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，対面や音声とも，電子メールとも伝達媒体の異なる「LINE」を使用したコミュニケーションデータの収集を行った。メッセージ伝達方法が急激に移り行く昨今，老若男女の消えゆく2010年代の生活と言語の在り方は，「資源」として捉えることができる。これらをデータベース化することにより，顔の見えない相手と円滑なコミュニケーションを取るためにどのような工夫がなされているか，様々な視点から分析，検討が可能となった。比較対象として，Eメールや小説の会話文のコーパス整備も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果の概要で述べた「言語資源」としての「LINE」データベースの学術的意義としては，検索性と再現性を保つよう加工されている。言語の専門家以外にも，十分に各自の探究する分野への研究の応用に役立てていただけるデータベースの構築ができた。それら各分野から得られる知見は，主に円滑なコミュニケーションの為に，我々の複雑化する社会生活に大きく貢献することが期待できる点で，社会的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：Through this research, I collected communication data through the "LINE" application, which has different transmission medium to communicate for face-to-face, voice and email.
Nowadays, the method of transmitting messages is changing rapidly. The way of life and the disappearing language of 2010’s older and younger generations which can be regarded as "resources". By making these into a database, it has become possible to analyze and study, from various viewpoints, what kind of treatment expressions strategy being used our communication with the person in Japan.
Through this research, communication data will be collected using "LINE", which has different transmission capabilities for face-to-face, voice and email.As a comparison target, I also made a corpus of email and novel conversational sentences.

研究分野：社会言語学，日本語学，言語学，コーパス言語学

キーワード：LINEデータベース　待遇表現　コーパス言語学　ケータイメールコーパス　小説会話文における発話箇所認定と話者属性付与　ポライトネス　言語行動　日常会話コーパス

１．研究開始当初の背景

パーソナルな関係性のもと発信される携帯メールに関する研究は，2000 年代から盛んに行われており，申請者もその一端を担ってきた（宮嵜:2004,2011)。

そもそもメールが従来の伝達方法と何が違うのか。そこに生じる待遇表現はどのような違いがみられるのか。メールでのコミュニケーションでは，対面や音声によるコミュニケーションに比べ，伝達の過大評価が生じやすい（Kruger et al,2005）との実験結果もある。本研究ではそれらの伝達媒体とも異なる「LINE」のデータを収集，データベース化を試みる。

また，比較対象として，「携帯メールコーパス」や，「小説」における会話文や日常会話コーパスの構築，整備を関連研究として同時に行う。

それらを元に伝達媒体（メディア）という一つの要因の違いによる待遇表現の特徴について分析する。

＜参考文献＞

宮嵜由美（2004)『場面における言語行動とストラテジーの考察‐携帯メールを中心に‐』東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 修士論文

Kruger,J.,Epley,N.,Parker,J.,Ng,Z-W.(2005).Egocentrism over E-mail: Can we communicate as well as we think? Journal of Personality and Social Psychology, 89, pp.925-936

宮嵜由美（2011)『メッセージの伝達可能性に関する社会言語学的研究』専修大学大学院文学研究科日本語日本文学研究科 博士論文

２．研究の目的

本研究では，対面や音声とはメッセージ伝達媒体とも，電子媒体の中でもこれまでのメールとも伝達環境の異なる「LINE」を使用したコミュニケーションデータの収集と分析を行う事を主目的とする。

LINE データの収集・記録は，今現在の言語生活を記録する「言語資源」としても極めて重要であるが，ツールの性質からデータの持続性が危ぶまれるため，収集が急務である。

本研究では，LINE データ上の待遇性の多様な特徴を捉えるために，比較対象となる研究として，ケータイメイルコーパスや，小説における会話文コーパスの構築，整備を同時に行う。

各伝達媒体使用者の多様な属性通して,円滑なコミュニケーションのための待遇性とストラテジーを提案する。

３．研究の方法

(1) コミュニケーションネットワークの構築と属性，待遇表現の特徴を分析するために

まず LINE 使用頻度の高い大学学部生に収集依頼を行い，LINE の相手となる協力者には随時データ収集の目的や使用方法の説明を行った上，許諾を得られた公開範囲のデータを収集する。

一個人を起点とし，そこから派生していく人間関係を詳細に記録することにより，提供者各自がそれぞれのコミュニティでどのような属性をもち，どのようにふるまい，相手を待遇しているか。コミュニケーションネットワークの構築，それぞれの関係性の中で流動する属性と待遇表現を可能な限り記録する。

(2) LINE データ収集・収録によるデータベース構築

LINE データは，文字列をテキスト化し，絵文字やスタンプ，写真や動画などの記録も可視化できるよう，さらには検索性と再現性を確保し，言語・非言語の両面から分析できるデータベースを構築する。

匿名性の確保も確実に行うため，一定の規定を設け，データベース上の文字列と画像データに匿名加工を行う。これらデータを，利便性の面で汎用性の高い xlsx 形式でデータベース化する。

(3)LINE と他の媒体との待遇性の違いを分析するために

LINE における待遇性を研究するため，比較対象として，E メールコーパス（『Senshu-Univ. Keitai-mail Corpus (SKC)』詳細は 5.主な発表論文等(2)に記載），小説における会話文（『現代書き言葉均衡コーパス』に収録の小説へのアノテーション情報付与の設計（代表，山崎誠「会話文への発話者情報の付与によるコーパスの拡張」(15H03212)）のコーパスデータ整備を同時に行う。

４．研究成果

(1)LINE データベース（以下『M-ZAK LINE データベース』）の概要

『M-ZAK LINE データベース』への協力者は，延べ 198 名，約 38,000 行 のデータを収集した。提供者の年齢層は，７，10 歳男児～10 代， 20 代， 30 代， 40 代， 50 代男女， 60 代男性となっている。データの送受信時期は 2013 年から 2018 年となっている（2019 年 1 月時点）。

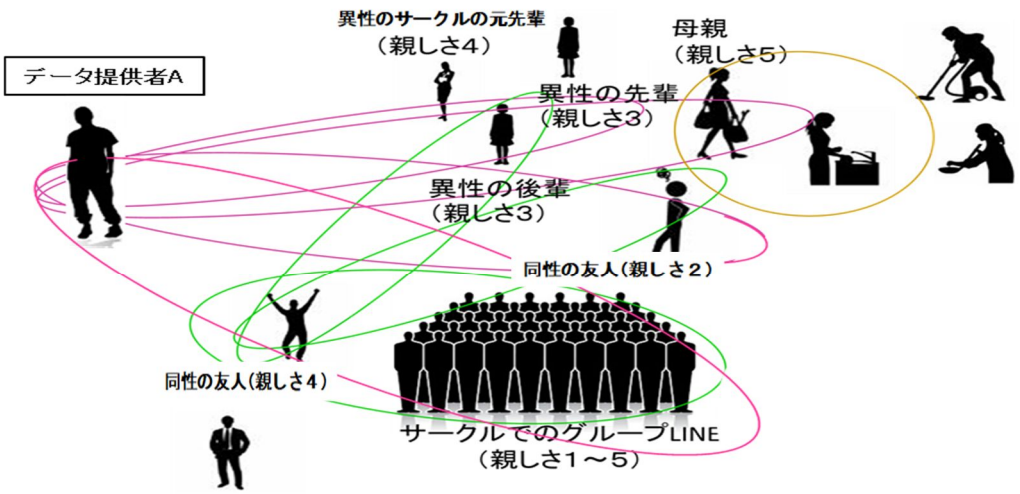

図１：LINE データ上のコミュニケーションネットワークの例（データ提供者 A の場合）

LINE データベースを整備するにあたり検討すべき点として，受信媒体の違いで文字化けが発

生しないスタンプ，画像，動画，通話機能などを文字メッセージとともに機械的な検索ができる限り可能となるよう考慮した。

これらの問題を勘案し，基本的には，①テキストデータ（一部画像のみ提供データについては手作業でのテキスト化を行った）とともに，該当する部分の画面の②スクリーンショット画像が同時に検索できるよう設計した。具体例を図 2 に示す。

図 2：『M-ZAK LINE データベース』加工例

(4) 故加藤安彦氏監修の『Senshu-Univ. Keitai-mail Corpus (SKC)』の整備

本 E-メールコーパスは，専修大学文学部加藤安彦ゼミナールにおいて 2003～2013 年度にかけ収集されたメールデータであり，送受信数 20 万件に及ぶ。図 3 に実際のコーパス画面を提示する。本整備は，故加藤安彦氏の遺言を受け，三宅和子氏，田中ゆかり氏，林直樹氏とともに 2016 年度よりコーパスデータの公開に向け，検索の正確性と再現性をさらに高め，最終整備を行っている。本科学研究費の申請時点で，LINE データとの比較対象としてのデータの重要性も鑑み，整備の関連性と重要性を述べた本研究成果の一部として位置づけられたものである。

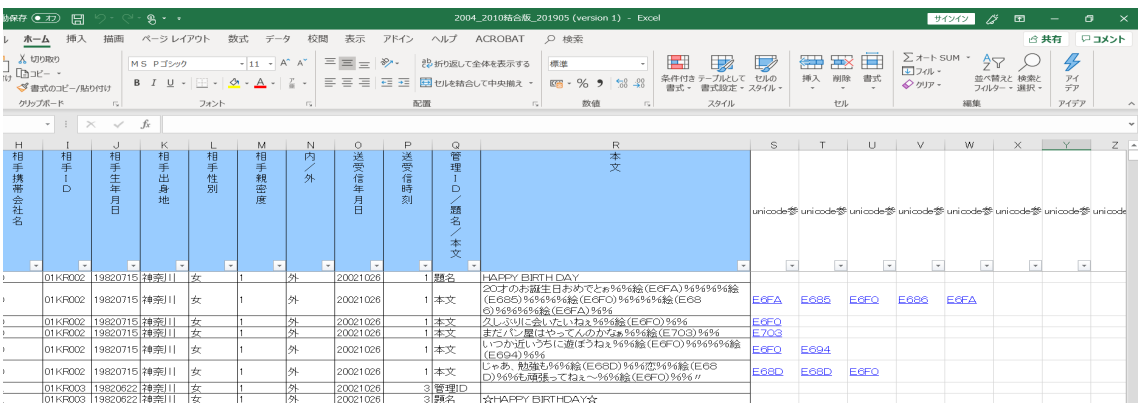

図 3：『Senshu-Univ. Keitai-mail Corpus (SKC)』加工例

(5) 『現代書き言葉均衡コーパス』収録の小説会話文における発話箇所認定と属性付与

『現代書き言葉均衡コーパス』に収録の小説へのアノテーション情報付与の設計（代表，山崎誠「会話文への発話者情報の付与によるコーパスの拡張」(15H03212)）のコーパスデータの再整備を行った。具体的には①発話認定箇所の検討，②「独話」「引用」「心内発話」など，通常の発話とは異なる場合の定義認定と処理，③話者にどのような属性情報を付与するか，さらには④コンコーダンサー中納言においての公開範囲に合わせた情報付与整備，⑤①～③すべての情報が付与された詳細版の情報付与整備を行った。

５．主な発表論文等

[雑誌論文] （計 2 件）

(1)宮嵜由美(2018)「LINE データベースの設計と属性情報付与の現状について」『言語資源活用ワークショップ 2018 発表論文集』3 巻 査読あり 2018 年 pp.176-184 言語資源 WS2018.於国立国語研究所　国立国語研究所 学術情報リポジトリ(http://doi.org/10.15084/00001651)

(2)宮嵜由美・柏野和佳子・山崎誠(2017)「発話文への発話者情 報付与の基本設計『現代日本語書き言葉均衡コーパス』収録の小説を対象に-」『言語資源ワークショップ 2016 発表論文集』1 巻　査読あり 2017 年 pp.38-48 国立国語研究所言語資源 WS2016.於国立国語研究所 国立国語研究所 学術情報リポジトリ(http://doi/10.15084/00001456)　宮嵜執筆・発表担当箇所：すべて

[学会発表]（計 6 件）

(1)宮嵜由美(2019)「流動する属性と関係性：『M-ZAK LINE データベース』からの報告」シンポジウム『日常会話コーパス』Ⅳ.於国立国語研究所

(2)宮嵜由美(2018)「LINE データベースからみるコミュニケーションネットワーク形成と言語行動 -ある 50 代女性のモバイル・ライフの視点からー」第 26 回 ひと・ことばフォーラム.於東洋大学

(3)山崎誠，宮嵜由美，柏野和佳子(2018)「BCCWJ 小説会話文への発話者情報の付与と計量的分析」計量国語学会第六十二回大会.計量国語学会.於京都教育大学 宮嵜執筆担当箇所：第 3 章 pp.13-17／全４章(pp.13-18)中

(4)宮嵜由美・柏野和佳子・山崎誠(2018)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』収録の小説における発話箇所認定について」シンポジウム「日常会話コーパス」III 宮嵜執筆・発表担当箇所：すべて

(5)宮嵜由美(2017)「ＬＩＮＥを使用した依頼：2 者間・3 者間での受け手のフォローと共話性」第 21 回ひと・ことばフォーラム

(6)宮嵜由美・柏野和佳子・山崎誠(2017)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』収録の小説を対象とした話者属性情報 付与の検討」国立国語研究所シンポジウム日常会話コーパスⅡ宮嵜執筆・発表担当箇所：すべて

[その他](計 4 件)
(1)故加藤安彦氏監修の『Senshu-Univ. Keitai-mail Corpus (SKC)』の公開に向けたデータ整備・検討作業と学会発表に向けた検討作業（2016 年度から 2018 年度にかけた三宅和子氏，田中ゆかり氏，林直樹氏との継続的共同研究作業）

(2)宮嵜由美(2019)「Q.これまでの絵文字顔文字と LINE のスタンプでは何か違うのでしょうか？」国語研究所「ことば研究館」ポータルサイト https://kotobaken.jp/qa/yokuaru/qa-67/ および，公式ツイッターhttps://twitter.com/kokugoken(2019 年 3 月アップロード)

(3)本科学研究費による公開予定の成果（データベース，コーパス）は以下の通りである
①『M-ZAK LINE データベース』
②『Senshu-Univ. Keitai-mail Corpus (SKC)』
③『現代書き言葉均衡コーパス』収録の小説会話文における発話箇所認定と属性付与

６．研究組織